



# 豊玉二中だより

令和7年度 第11号  
発行日 3月2日(月)  
練馬区立豊玉第二中学校  
校長 大野 雄一郎

## 「聴くと聞く」

校長 大野雄一郎

春の陽気が感じられたかと思えば、また冬の陽気に戻ったりと変わりやすい天気の中にも、校庭の花のつぼみは確実にふくらみ始めています。東京ではインフルエンザが流行しているようですが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、先日ある授業を参観させていただきました。落ちついた雰囲気の中で、先生がただ授業内容を説明するだけでなく、班で話し合い、それを代表が発表したり、その発表に意見を述べたりと、生徒の活躍が目立った授業でした。現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が全教科で求められ、授業の様子も変化しています。本校でも、そのことを意識した授業改善に取り組み、授業の始まりには、その時間の目標や生徒の活動を示し見通しをもてやすくしたり、授業の最後には振り返りを行い、学習事項の定着・深化を図っています。また、単元によっては、先ほどの話し合い活動や発表を取り入れたり、ICT機器の活用を通して、生徒一人一人が主体的に取り組める分かりやすい授業を目指しています。

そして、それらを達成するためには、「きく」という活動が大きな前提となっているのではないのでしょうか。例えば、発表するにはどのような発表をすればよいかしっかり理解する姿勢が求められますし、話し合いでは相手の言いたいことを十分に理解しなければ、適切な意見が述べられません。そのために生徒の皆さんには「聞く」（音声が入ると耳に入ってくる状態）ではなく「聴く」（漢字に耳だけでなく目や心が入っていて、相手が何を伝えたいのか、その表情や気持ちを汲み取ろうとする姿勢）力を身につけてほしいと思います。

それでは、聴く力を向上させるために意識してほしいことは、漢字の中に入っているように、「目と耳と心で聴く」ということです。まずは「耳」ですが、耳がちゃんと働くためには自分がおしゃべりしてはいけません。さらに「目」ですが、話しを聴くときは話す人をしっかり見るということが大事です。最後は「心」ですが、心で聴くというのは、話しをしている人のこと、話しの中身を一生懸命考えながら聴くということです。

授業だけでなく、普段の生活の中でも「きく」ことは大きなウェイトを占めています。今日から「聴く」姿勢を少しでも意識していくことを期待しています。

地域の皆様、保護者の皆様におかれましては、今年度もお世話になりありがとうございました。4月からもよろしく願いたします。